

日本史籍講読7B－II

科目ナンバリング JPH-230
選択必修 2単位

小山 俊樹

1. 授業の概要(ねらい)

財部彪(たからべ・たけし 1867～1949)は都城藩の士族の家に生まれ、海軍兵学校を首席卒業した大正・昭和初期の海軍軍人である。山本権兵衛(海軍大将)の娘を妻とし、明治42(1909)年から大正3(1914)年まで海軍次官、大正12(1923)年から海軍大臣を6代の内閣で務めた。この間、主として立憲民政党の政権下で軍政を担当し、統帥権干犯が問題となるロンドン海軍軍縮条約を日本側全権として締結した。

財部には膨大な分量の日記(国立国会図書館蔵)があるが、大変な悪筆のため、一部の研究者しか扱えない史料として知られている。1983年に「海軍次官時代」と題する日記が翻刻刊行されて以来、続編の刊行が多年待ち望まれていたが、40年近くを経た2021年秋に「海軍大臣時代」が刊行された。そこで本授業では、新規刊行された「財部彪日記」をテキストに使用し、大正～昭和期の海軍を通した近代史の実相を読み解いていく。

2. 授業の到達目標

- ①近現代日本の政治家が書いた「日記」を活字で読み、その文意を理解すること。
- ②「日記」に書かれた登場人物・事件・事項などを調査する能力を身につけること。
- ③他の史料などをもとに、「日記」の記述を検証できるようになること。

3. 成績評価の方法および基準

毎回の授業での発表を重視する。
また最終回にテストを行い、総合的に評価を行う。

4. 教科書・参考文献

参考文献

尚友倶楽部編 財部彪日記〈海軍大臣時代〉 芙蓉書房出版
坂野潤治ほか編 財部彪日記 上・下―海軍次官時代 山川出版社

5. 準備学修の内容

参考文献や資料を読み込み、発表担当範囲の政治や社会の動きを理解すること。
その上で、配布されたテキストの記述事項を幅広く調査し、その結果を発表に盛り込むこと。

6. その他履修上の注意事項

授業への出席、および報告・質疑の内容を重視する。報告者はもちろん、その他の受講者も事前に予習を行い、質疑応答に参加することが求められる。

7. 授業内容

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 【第1回】 | ガイダンス 史料の概略と授業の進め方について(LMS上にて実施) |
| 【第2回】 | 1923年(上) |
| 【第3回】 | 1923年(下) |
| 【第4回】 | 1924年(上) |
| 【第5回】 | 1924年(下) |
| 【第6回】 | 1925年(上) |
| 【第7回】 | 1925年(下) |
| 【第8回】 | 1926年(上) |
| 【第9回】 | 1926年(下) |
| 【第10回】 | 1927年(上) |
| 【第11回】 | 1927年(下) |
| 【第12回】 | 1928年 |
| 【第13回】 | 1929年 |
| 【第14回】 | 1930年 |
| 【第15回】 | まとめ―ロンドン海軍軍縮条約とその影響／最終日試験 |